

社会教育委員の会議 会議概要

1	審議会名	令和8年度第1回安曇野市社会教育委員の会議
2	日 時	令和8年7月2日(木) 午後2時から3時30分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎大会議室
4	出席者	嶋田奈麻美委員(議長)、佐々木一生委員(副議長)、伊藤和子委員、 細川博水委員、高嶋俊明委員、高橋清美委員、浅野恵子委員、赤沼章 子委員、猿田実咲委員、小林比出代委員
5	市側出席者	橋渡教育長、財津生涯学習課長、櫻井学校教育課長、三澤文化課長、 丸山子ども家庭支援課長、丸山スポーツ推進課長、 生涯学習課社会教育係 奈良澤係長・宮下主任
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人
8	会議概要作成年月日	令和8年7月28日

協 議 事 項 等

会議概要

- 1 開 会 生涯学習課財津課長
- 2 あいさつ 橋渡教育長
- 3 自己紹介
- 4 社会教育委員について
- 5 議長及び副議長の選出について
- 6 協議事項
 - (1) 令和7年度事業報告について
 - (2) 令和8年度事業方針及び事業計画について
 - (3) 安曇野市生涯学習人財バンクについて
- 4 その他
- 5 閉 会

協議概要

- (1) 令和7年度事業報告について

【事務局】

- ・教育振興基本計画及び生涯学習推進計画の位置づけについて説明。
- ・事業報告について、各課長より説明。

【委員】

莫大な量の内容を今ここで把握するのはとても大変であると実感した。
今の中学校の部活動がなくなると聞いている。中学の部活と、スポーツ推進課の活動は何か連携があるのか。
もう一点、市の美術館は指定管理者が運営しており、報告書に掲載されていないということだが、美術館の活動に関してどのように把握しているのか。

【事務局】

部活動の地域展開の関係は、スポーツ推進課ではなく学校教育課になる。
今年度末をもって土・日曜日の部活は社会活動の一つになり、平日についても令和10年の夏の大会をもって、移行という形になる。
まず一つは、学校の先生方の仕事の中でかなり負担があり、子どもも減っている状態で、これまでのような部活動というのが維持できなくなってきた。
先生も減っている中で、技術的に指導できる先生がいるのか、地域で人材を求めていくという状況である。

【事務局】

部活の地域展開については、総合型地域スポーツクラブ、堀金の「スポネット常念」が窓口になり、力を入れて取り組んでいただいているが、そこも指導者不足ということがある。今後、スポーツ協会やスポーツ少年団などの紹介を受けながら、地域を広げて取り組んでいきたいと考えている。

【事務局】

美術館の指定管理者制度については、市で作成した仕様書の中で、5年間どのように運用するのかを指定管理者に決めてもらい、その後は毎年予算の時期に精査しながら運用していただいている。月1回定期的な指定管理者の会議に市の担当者が出席し、意見を述べ、問題があれば調整している。

また、文化課長は、指定管理者である安曇野文化財団の理事というような立場にもなっているため、財団の事業計画や事業報告を理事としての立場で意見を述べている。

(2) 令和8年度事業方針及び事業計画について

【事務局】

令和8年度事業方針、事業計画について、各課長より説明。

【委員】

小学生のバレーボール教室は全市民向けにやっているということによいか。

【事務局】

全市民となるとレベルに合わせるのが難しい。ママさんバレーなどの現役で頑張っている選手に指導してもらえないか検討中である。

【委員】

検討段階というと、スポーツ協会の方も呼ばれるのか？

【事務局】

検討段階で、例えばママさんバレーも協会の1団体であるので声を掛けさせていただこうと考えている。

【委員】

子ども家庭支援課について、児童館、児童クラブで、子どもたちが待機状態だということは、少子化が進む中でそれだけ女性活躍推進ということもあると思うが、お母さんたちが預けたいという表れであるか。

【事務局】

その通りである。

【委員】

児童クラブは社協さんが指定管理であるか。その点で何か感じてる事や情報があればお願いしたい。

【委員】

市内の中で全学年受け入れができるところと、受け入れられていないところがあることは、解決していただきたい。児童クラブの現状を伺うと、子どものストレス発散の時間ということでトラブルが多いようである。

利用者数が増えるのが良いかはわからないが、一刻も早く全学年の受け入れと事故が減ることを期待している。

【委員】

職員不足というところも気にかかるが、職員の精神的な疲弊ということも聞いている。

子どもたちが異学年で遊ぶ姿は想像できるが、そこで事故やいじめといった対応ができるようにする研修などもあるのか？

【事務局】

社協で研修等をやっていると聞いている。それ以上に我々の方でゆとりを持つ

て、子どもたちが過ごせるようなスペースを与えたり、社協の皆さんが安心してできる人数であったり、そういった仕組み作りが必要と考えている。今日いただいたご意見を参考に、進めていきたい。

【委員】

私は今回、はじめて委員を受けた。前年、前前年、2年間の社会教育委員の会議について振り返ったが、令和6年度の第1回の新任の皆さんの会議については、こども支援課、人権共生課、地域づくり課、高齢者介護課、福祉課、環境課、健康支援課などが会議に出席したと書かれていた。今日はそういう職員が会議に参加すると思って来た。学校や生涯学習、教育委員会レベルだけでは対策が難しい時代に入っていると考えている。

研修もしなければならないが、もう少しダイレクトに地域として幅広い立場からいろんな意見を聞く社会教育であってほしい。事務局の方で機会を見て、関係の皆さんのご意見をお聞きできる機会を設けていただきたいと要望する。

【事務局】

生涯学習推進計画を見ると、生涯学習は非常に広く行政だけでどうにもならない。生涯学習の広報誌を使って、将来的には市民団体の皆さんが行う生涯学習に関わるようなイベントなどの案内も目指していかないといけない。

生涯学習推進計画では、令和9年度の目標値があるが、進捗管理の部分で令和6年度からどれだけ進んだかを、計画に関わった全ての部局から情報を取りながら確認をしていきたい。その時には、各部局に声をかけて、会議中で報告させていただく。

【委員】

先日、文書館の講演会に行ったとき、案内文を専門に整理をされているアーキビストの先生方が、望月桂の調査の事で、市の関わり方が素晴らしく、課や係を超えて、実に上手はチームワークで、早く、的確に資料整理が進んだという話をされたて興味深かった。全国的に見ても新しいモデルになるような取り組み方ではないかともおっしゃっていた。

民生児童委員は地域の子どもの見守る立場にいるが、地域に子どもがいらないと言っている。児童委員が活動する時間に子どもたちは、児童館や児童クラブに行っていて、町内にはいないという話を聞いて初めて驚いたぐらいに知識が回っていない。連携が取れていないことの一つではないか。

既に取り組んでいるものは素晴らしいものがたくさんあるのに、連携が取れていないところが一番の課題である。

【事務局】

学校教育課の方の方針の中にあるコミュニティスクール事業は、市内17校ある各小中学校で「学校運営協議会」があり、学校の課題について協議されている。今度各地域の公民館の社会教育指導員の方が事務局となって、「地域学校協働本部会議」を開催し、その課題を地域でどのように解決できるかを考えていく。そこには、児童館の関係者や学校校長、主任民生児童委員などに入ってもらい、地域の子どもの居場所づくりや見守りの方向など協議する場がある。ただし、全体に周知できているかという課題があるが、今後頂いたご意見を参考に考えたい。

【委員】

安曇野市の方針、立てている内容は、豊かなものだなどと改めて思った。魅力的な企画がたくさんあるので、上手に連携をとりながら、より市民に届く形に広がっていくと非常によい。

【委員】

堀金の扇町では、高齢者の末広会というものを立ち上げており、毎年行事食の講習会や花壇作りを行っている。この花壇は、末広会、子供育成会、公民館関係の人たちみんな一同に和気あいあいと花壇作りをしている。今核家族で、おじいちゃん

おばあちゃんというとの触れ合いが少ないため、子どもたちも喜んで手伝っている。

東野、安曇野、妻野、嬉野と、皆「野」のつくところは、ロマンがあって、文化に富んでいる。今、勿忘草の医療テレビドラマを放送しているが、映画やドラマなどで安曇野という素晴らしい地域をわかっていただきたい。

【委員】

公民館を担当した経験があり、地域で市民の皆さんが繋がりを持つ、あるいはその地域の成り立ちを学びこれからどうしていくかを考えると、その中心は公民館だと思う。

今の公民館体制は、果たしてそれに耐えうる状態なのか心配している。また、それに関わる団体も高年齢化によりいくつか解散していると聞いている。

そんな中でも、地域の人たちの繋がりをどのように保っていくかということを、しっかり考えていかなければならない。

(3) 安曇野市生涯学習人財バンクについて（資料6参照）

【事務局】

生涯学習人財バンクについて説明。

- ・今年6月末の人財バンクの状況は、指導者48名、グループで53団体が登録。
- ・まわりに指導者やグループがいればお声掛けいただき、登録を進めていただきたい。
- ・情報誌「Link」については、7月中に発行予定。

4 その他

【事務局】

- ・教育委員会だより「ふるさと安曇野」(No.4)について説明。
- ・「コミュニティスクール事業」(No.11・12)について説明。

【委員】

市民活動サポートセンターが、堀金支所内に今年度オープンした。配布したチラシを読んでいただきたい。

また、「ゆるつな茶話会」については、サポートセンターを使って年間7回、毎回10人から20人程の方が集まって、半日お茶飲みながら話をしている。一度ここへ訪問していただきたい。

【委員】

以上をもちまして、令和8年度第1回社会教育委員会を閉じさせていただきます。
時間を超えての深いご協議、ありがとうございました。